

平成 20 年 1 月 30 日
近畿地方整備局

第 2 回大阪湾高潮対策協議会

議事概要

1. 協議会の概要

日 時 : 平成 20 年 1 月 30 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 30
場 所 : シティプラザ大阪 2 階・燦
出席者 : 別表のとおり

2. 議事概要

大阪湾高潮浸水氾濫計算結果(淀川～大和川に挟まれた地域)の報告及び大阪湾高潮対策危機管理行動計画の策定に向けた考え方について事務局より説明を行い、各委員にご議論いただいた。

委員からの主な意見は、以下のとおり。

(主な意見)

【高潮浸水氾濫計算結果の取扱いについて】

- 高潮浸水氾濫計算結果の取扱いに関する説明で「具体的な地域における浸水の可能性を示すものではない」という表現があるが、「浸水の可能性が無いのならそもそも検討しなくてもよいのでは」といった誤った認識を招くおそれも懸念される。公表に際しては、前提条件を正しく伝え、一般の人が十分に理解出来る様な説明文に修正して公表すること。

【高潮浸水氾濫計算における台風コースの設定について】

- 大阪湾に対して最も危険な台風コースとして室戸台風コースを西へ 40 km 平行移動したコースが設定されているが、地域によって最も危険な台風コースは異なることから、各地域で最悪となる台風コースで高潮浸水氾濫計算を実施してほしい。住民へ実際に行動してもらう際に最悪のコースでない為、理解が得られない。

- それぞれの地点で最悪となる台風コースによる高潮浸水氾濫計算結果がなければ危機管理行動計画が検討できないというものでは無い。大阪の被害が最も大きいことや計算に掛かる費用、時間も考慮し、今回のコース設定で全エリアの浸水氾濫計算を実施する。

ただし、既往検討や既往災害でそれぞれの地点で最悪となるコースやその時の潮位が把握されているならば、その結果と今回の計算と比べて潮位がどの程度変化するのか、感度分析を行うことが可能である。

【最悪のシナリオの前提条件について】

- 最悪のシナリオを突き詰めるのであれば、全ての水閘門を浸水開始仮定箇所とするのが最悪となる。全ての水閘門の開口幅と今回浸水開始仮定箇所とした水閘門の開口幅の比により、流入量がおおよそ把握できる。

【大阪湾高潮対策危機管理行動計画について】

- 最悪の状態が分かった段階で、具体的なアクションプランを提示していく必要がある。又、出来る事、出来ない事はあるが、継続的に対策を進めることが重要である。
- 「情報の伝達」等共通の取組は、協議会で議論し、「避難対象者への勧告」等市町村が最終判断を下すものについては、関係市町村との調整も必要。
- 現存する地域防災計画は地域住民が対象であるが、近年の交通網の発達による人の行動範囲の広域化を踏まえ、当協議会では、外来者や通勤者等も対象にした危機管理の検討が必要。
- 危機管理行動計画に協議会全体として最低限実施することを示し、それ以外は関係機関毎に対応してはどうか。
- 情報や避難の対策に重点を置き、今年の台風シーズンまでに着手できる具体的な取り組みを示してほしい。